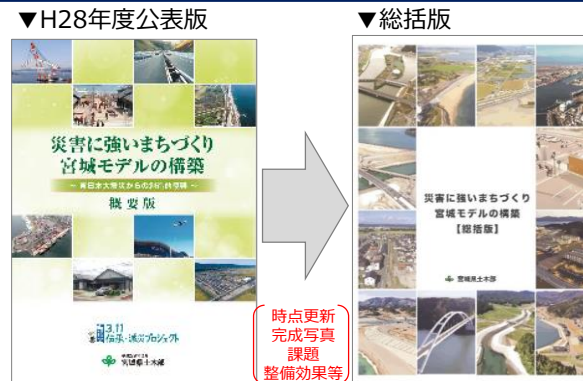


災害に強いまちづくり宮城モデルの構築（総括版） 概要

総括版の概要

- ◆概要
 - 平成23年10月に策定した「宮城県震災復興計画」の復興のポイントの第1に「災害に強いまちづくり宮城モデルの構築」を掲げ、高台移転、職住分離、多重防御による津波対策のほか、住まいの早期復旧や防災道路ネットワークの整備など、震災教訓を活かした災害に強いまちづくりに取り組んできた。
 - 土木部においては、震災から5年目が経過した平成29年3月に、「災害に強いまちづくり宮城モデルの構築」の具体的な取組内容や考え方、プロセス等について冊子としてまとめた。
 - 震災から10年を経て、前回まとめた内容に加え、これまで実施した具体の取組や生じた課題、事業効果等を「総括版」としてまとめ、後世に伝えるとともに、広く情報発信をしていく。



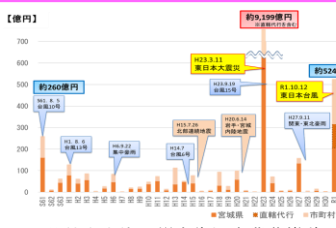
- ◆総括版の構成
 - 第1章 「災害に強いまちづくり宮城モデル」の構築
 - 第2章 安全安心な「まちづくり」
 - 第3章 災害に強い「道路」・「港湾」・「空港」等
 - 第4章 早期復旧と復興の加速化に向けた取組
 - 第5章 震災教訓の伝承 3.11伝承・減災プロジェクト
 - 第6章 復旧・復興事業による課題（新規）
 - 第7章 復旧・復興事業による整備効果事例集（新規）

記録誌の内容構成

第1章 「災害に強いまちづくり宮城モデル」の構築

- 節構成
 - 1) 東日本大震災の概要
 - 2) 予算と人員の推移
 - 3) 「災害に強いまちづくり宮城モデル」の構築
- 記載概要
 - ・東日本大震災の概況と被災状況
 - ・公共土木施設の被災状況
 - ・災害に強いまちづくり宮城モデルの役割と位置づけ

💡 **第1章のPoint**
 東日本大震災が本県にもたらした被害概要や「災害に強いまちづくり宮城モデル」の概念についてとりまとめている。また、それぞれの取組における教訓やそれを基にした取組方針について記載している。



第6章 復旧・復興事業による課題

💡 **第6章のPoint**
 第2章から第5章までにまとめた各取組におけるポイント、評価できること、留意すべきことについてまとめた。（以下に第6章におけるそれぞれの章に対しての記載内容の一例を示す）

- 評価できること
 - ・環境アドバイザー制度を活用し、現場に応じ、環境に配慮した復旧工事を推進
 - ・県、市町、UR都市機構及び民間事業者等が連携による円滑な災害公営住宅整備を推進
- 留意すべきこと
 - ・環境配慮については、工事完了後も定期的・継続的なモニタリング調査の実施が重要
 - ・災害公営住宅整備については、地域の実情に応じた整備手法を活用できるよう事前の計画策定と組織横断連携が重要

第7章 復旧・復興事業による整備効果事例集

💡 **第7章のPoint**
 復旧・復興事業による整備効果を写真とともに掲載するなどわかりやすく表現した。

第2章 安全安心なまちづくり

- 節構成
 - 1) 新しい津波防災の考え方
 - 2) 地形特性や被災教訓を踏まえた「新しいまちづくり」
 - 3) 復興住宅の整備
- 記載概要
 - ・防潮堤の「粘り強い構造」
 - ・復興まちづくり
 - ・応急仮設住宅の供給
 - ・災害公営・復興住宅の整備

💡 **第2章のPoint**
 「災害公営住宅整備の記録(R2.6公表)」, 「河川海岸復旧・復興環境配慮記録誌(R3.3公表)」, 「復興まちづくりの検証・伝承(R4.3公表)」等と整合を図り、主な内容を抜粋し、本誌に取り入れている。



第6章 復旧・復興事業による課題

- 評価できること
 - ・復興まちづくり計画と連携した道路計画の立案
 - ・港湾施設背後地津波漂流物対策施設の整備推進
- 留意すべきこと
 - ・被災市町などとの横断的な調整をより一層緊密に行うこと
 - ・施設の役割を立地企業や利用者のみならず、周辺住民等への周知

第3章 災害に強い「道路」・「港湾」・「空港」等

- 節構成
 - 1) ラダー型防災道路ネットワークの整備
 - 2) 物流・交流基盤の強化
 - 3) その他の取組
- 記載概要
 - ・防災道路ネットワークの構築
 - ・災害に強い「港湾」
 - ・空港の復旧と交流人口拡大
 - ・公園・緑地、広域防災拠点

💡 **第3章のPoint**
 各分野での整備事例を追加したほか、「空港」分野については、24時間化の取組についても掲載している。また、「公園・緑地事業」や「広域防災拠点」の整備等についても新たに追加している。



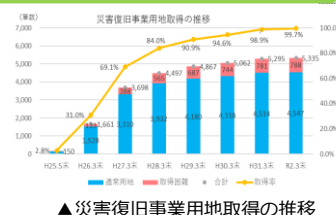
第6章 復旧・復興事業による課題

- 評価できること
 - ・多数権利者が存する土地の処理等に関して外部委託の積極的な活用
- 留意すべきこと
 - ・委託業務の効率的な活用が図られるように発注箇所の選定や交渉技術の向上等

第4章 早期復旧と復興の加速化に向けた取組

- 節構成
 - 1) 早期の用地取得対策
 - 2) 受注環境改善と施工確保対策
 - 3) 災害復旧事業における取組
 - 4) その他の取組
- 記載概要
 - ・早期用地取得のための取組
 - ・円滑な施工確保に向けた取組
 - ・建設資材の安定確保
 - ・災害復旧事業における取組

💡 **第4章のPoint**
 早期復旧と復興加速化に向けての用意取得や施工確保対策を進めていく上で生じた課題についてまとめている。



第6章 復旧・復興事業による課題

- 評価できること
 - ・震災以前から進めていた津波防災意識の啓発について、震災後も早い段階から震災記憶の風化防止に努めている
- 留意すべきこと
 - ・防災文化を次世代へ伝承するため、教育機関とともに積極的に取り組んでいくことが必要

第5章 震災教訓の伝承 3.11伝承・減災プロジェクト

- 節構成
 - 1) 3.11伝承・減災プロジェクト
- 記載概要
 - ・津波浸水表示板・伝承板
 - ・津波防災シンポジウム
 - ・デジタルアーカイブ

💡 **第5章のPoint**
 津波浸水表示板や伝承板の設置状況、新たな取組として行っているデジタルアーカイブを紹介している。



09 大島浪板線（気仙沼大島大橋）

災害時における住民の孤立が解消

効果

- ・道路開通によって、住民の孤立がなくなり、復興のシンボルに
- ・所要時間短縮で、大島の観光客が7倍に増加

大島架橋事業は、大島の住民が長期に渡り孤立を余儀なくされたため、復興のシンボル事業として着手しました。船を使わずに本土側に渡ることができる、まさに命の橋となる大きな意味合いを持っています。

龍崎からの眺望や、小田の浜（環境省選定快水浴場百選、全国2位）などの優れた自然景観を満喫。

大島～仙台間の所要時間

フェリー利用 3時間...
 陸続きとなり、40分短縮！
 車両利用 2時間...

気仙沼市大島観光客数（千人）

2017年 94
 2018年 94
 2019年 676
 大島への観光客7倍増加！

担当各課から一言

気仙沼大島大橋の開通によって、住民の孤立がなくなり、自由に往来できるようになりました。有事の際には住民にとって命の橋となります。また、大橋は、復興のシンボルとして、住民の希望となるだけではなく、大島の観光客数増加にも貢献しています。

▲事例集の一例（全20事例を掲載）